

## 令和4年度（第6回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年2月16日（木） 9時54分～11時33分
  - 2 開催場所 加古川市役所南館 302会議室
  - 3 出席委員 後藤昌委員、坂田委員、田上委員、後藤強委員、川上委員、菅原委員、田中委員、徳田委員、和田委員、山尾委員（10名）
  - 4 欠席委員 長谷中委員、高瀬委員、善積委員
  - 5 出席職員 小南教育長、桐山教育指導部長、福島教育指導部参事、松尾教育指導部参事、今津教育指導部参事、梅野社会教育課長、河村文化財調査研究センター所長、宮本文化財調査研究センター副所長、高橋加古川公民館長、藤原加古川西公民館長、社会教育課（畑副課長、川向地域家庭教育係長、今井主事）
  - 6 傍聴者 0名
  - 7 議事要旨
- 開会 9時54分  
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

- 1 文化財の保存と活用及び今後の方策について  
（文化財調査研究センターより説明）

### 委員

総合文化センター博物館について、事前に予約すれば、学芸員の方に説明いただくことは可能か。

### 文化財調査研究センター所長

現在はガイドの取扱いはないが、総合文化センター及びスポーツ・文化課に働きかけていきたいと考えている。

### 委員

勉強したいので詳しく説明してほしいという声に対応できれば、行ってみようかなと思う施設になると思うので、検討いただきたい。

### 委員

現地見学会の開催について、鶴林寺はガイドボランティアさんがいらっしゃるとのことだったが、日岡山古墳群や西条古墳群、平荘湖古墳群などは、今後ガイドボランティアの育成に取り組むとのことであった。どのようにするのかは今後検討されると思うが、公民館では地域学講座が実施されており、そういったところから人材を育成できれば、より深いものができると思う。市民団体でも、かこがわ人の会など詳しい方もいらっしゃるので、組織化を念頭に置いていただければ、より目線の低い活動をしていただけたらと思う。

先日、まちこんひおかにおいて、日岡山公園内の南大塚古墳を訪れた際、登頂部でバーベキューが行われていた。整備にも力を入れていく必要があるのではないかと考える。

また、文化財保存活用地域計画の項目中の寺家町・本町地区について、対応策を検討する必要があるとの具体的ではない記載となっている。難しい問題もあると思うが、貴重な建物があると思うので、十分に協議いただき、残すことができるように前向きに検討いただきたい。

### 文化財調査研究センター所長

公民館の地域学講座との連携や日岡山古墳群を案内できる方の養成も検討していきたいと思う。バーベキューの件については、初めて知ったので管理をしっかりとっていかないと

といけないと考える。また寺家町・本町地区については、今後の活用状況が見えてきていないところがあるため、注視して対応について検討していきたい。

#### 委員

総合文化センター博物館を見学した際、説明いただきながら見学できたので、とても良い学習となった。今後ガイドボランティアを養成していくとのことだったので、頑張っていたきたいと思う。

また、登録文化財制度と補助金の来年度の予算措置について、教えていただきたい。

#### 文化財調査研究センター所長

登録文化財制度については、来年度末の条例改正を目標に事務を進めている。現在は、案を作成しているところである。候補もいくらかあるが、所有者からの申し出により登録していく流れになるので、所有者に働きかけていきたいと考えている。

補助金制度については、現在、指定文化財について補助金を交付しているが、現状十分な額が補助できているとは考えておらず、さらに増額できればと考えている。来年度の増額はないが、再来年度の拡充に向けて折衝を進めていきたいと思う。

#### 委員

予算的には一筋縄に行かないと認識しているが、予算をつけるためには、今以上に大勢の方に認識いただくことが必要である。資料にあげておられることを着実に進めることができるよう頑張っていたきたい。

また、日岡山古墳群は県指定の文化財になっているのか。また県指定になればどう違うのか教えていただきたい。

#### 文化財調査研究センター所長

日岡山古墳群については、国や県の指定文化財とはなっていない。専門家によると国指定文化財になってもおかしくないぐらいのものだという意見もいただいている。まずは、市の指定文化財として指定し、数年かけて着実に進めていきたいと考えている。

国の指定文化財となると、いろいろな制限はかかるが、整備や保存を行うための経費の補助率は高くなる。県も同様の制度もあるが、補助の金額は小さい。草刈りなど日常管理についての補助はなく、文化財の保存に必要な大きな木の伐採に限り、補助される場合があるくらいなので、県の指定文化財になっても特段変化はない。

#### 委員

西条古墳群について、10年ほど前に整備が進んだ際、木を伐採しようとしたところ、地元から残したいという意向があったため、伐採できなかつたと聞いたことがある。木はいいところもあるが、大きくなると倒木などの危険性もあるため、今のまま放置するのは良くないと思うので、できることを考えるべきではないかと思う。

#### 文化財調査研究センター所長

木の管理については、頭を悩ませているところで、これまではあまり行ってこなかったが、近年は危険性もあるため、年間に数本の危険な木の伐採を行っている。神野の二塚古墳にて地元の方がきれいに管理いただいているという話を聞いたことがあり、そういった事例を参考にしながら、古墳の木について検討していきたいと考えているので、またご意見をいただきたい。

#### 委員

単に説明文を見るだけでは、記憶に残らない。どういったものか説明していただくことで、自然と話が頭に残る。

日岡山もたくさん古墳があるが、有害動物が住んでいるような雰囲気になってしまっている。古墳について知ってもらうとともに、一度、木を伐採し、きれいに管理していくことが必要なのではないか考える。

また、本岡家住宅の茅葺き屋根の修繕について話があったが、工事する際に、興味ある方が見学できるようにすれば、記憶に残っていくと思う。

#### 委員

学校現場として、文化財のことを考えたときに、わりと子どもたちの身近に文化財があることに気付く。私が勤務する小学校区には鶴林寺があり、隣の公園には、子どもたちが毎日遊びに行く憩いの場となっている。しかし、背中合わせのところでは生活しているにもかかわらず、鶴林寺の中に入ったことのある子どもは少なく、実際の文化財に触れる機会はあまりないというのが現状である。

コロナ禍で良かったと思ったことは、校外学習で行ける場所が限られたことで、かえって身近なものに目が向くということがあった。6年生は鶴林寺に歩いていき、ガイドさんの説明を受けて聖徳太子の勉強をすることができた。憩いの場としての場所から文化財に足を踏み入れるきっかけとなった。これから、文化財を大切にするのは子どもたちであるため、経験していく必要があると思った。身近な文化財について、外国語など様々な学習と絡めて教育課程を作り、学ぶとともに外に発信する学習を行うことで良い学習ができると思う。また、必要な知識について専門家の話を聞くことで、より濃いものにできると思う。

また先日、鶴林寺の鬼追いがあったが、そういった文化に触れる機会も大切だと思う。

#### 委員

先日、鶴林寺の工事見学会に参加したが、古い瓦を再利用するという説明があり驚いた。多く来られたとお伺いしたが何人ぐらい来ていたのか。どんな内容だったか発信すると、次の見学会の時に、一人でも多くの方に関心を持ってもらえるのではないかなと思う。

#### 文化財調査研究センター所長

瓦だけでなく、瓦の下の土、滑り止めの杉の皮など、昔の技術をそのまま使うというのが文化財の修理の考え方である。土曜日の見学会に参加したが、150人くらいお越しになっていたので、2日で300人くらいがお越しになっているのではないかなと思う。

#### 委員

ガイド案内者をどのような形で見つけるのか、養成するのは大きなテーマではないかなと思う。シニアの方も関心を持っている方も多いので、そういった方を公民館の取組などいろんな形で見つけてきて、シニア層が社会に関わる一つのテーマになればよいのではないかなと思う。

また、登録文化財制度の創設について、申し出制とのことであるため、広くPRしていく必要があると思う。

#### 委員

文化財は、まちを作ったベースになっているものであると感じている。しかし、普段市民の方が関心を持っているかということそうではない。先日、子どもと日岡山公園に遊びに行ったときに、途中にあった文化財について子どもに説明すると、とても関心を示した。いかにそこに目を向けさせるのかということに、力を入れても良いのではないかなと思う。子どもたちが、身近なところで触れることで、ふるさと意識の向上につながっていくのではないかなと思う。

また、大人が目に付くための取組として、例えば、観光協会と連携して映画のロケ地を誘致すると、全国的な話題になったり、地域の魅力の発信ができたりすると思うので、日岡山古墳群についても、国指定文化財になるレベルであれば、そういった使い方も考えても良いのではないかなと思う。

#### 委員

文化財の保存というものは、未来につないでいくような仕事だと感じた。時間がかかる

仕事であり、行政の縦割りを超えないと市民のニーズには答えられないと感じている。

行政の組織を崩すことはできないが、部署間を調整するコーディネーターが必要である。声掛けではなくて、調整し交渉することが必要である。子どもたちが未来につなぐ意識を持たないと、まちおこしをしていく行動につながらないと思う。学校教育とどうやって結びつけるのか具体的に示していく必要がある。加古川市の文化財は素晴らしいものがあるが、知らない人が多いというのが現状である。

#### 委員

子どもたちの虐待など福祉に関わる問題には、関係課の連携がとれていると思う。ソフト面の行事も関係課が連携してできればと思う。本岡家住宅の茅葺き修繕も、単に修繕を行うのではなく、参加型のイベントとして、仕掛けづくりができれば良いと思う。

## 2 令和5年度社会教育委員活動計画（案）について

（事務局より説明）

#### 委員

スケジュールが固定化してきていると感じており、変化があってもいいのではないかと思う。社会教育に協力してもらえる団体や連携など、具体的にどんなところがあるのかという共有などができればよいと思う。

#### 委員

毎年施設のことを順番にやっているが、その年にはそこしかないという風になっている。事業内容は年度当初の説明で広く浅くは分かるので、様々な課に関わるソフト面の事業について協議できればと思う。

（報告事項）

### （1）加古川市立公民館の利用促進に向けた取組について

（社会教育課より報告）

（その他）

#### 委員

公民館は職員がそれぞれ頑張っているが、利用が少ない状況から抜け出せない。公民館の利用者からみると職員の存在は大きく、異動については5年ルールがあると聞いたことがあるが、地域の状況も鑑みて、柔軟に対応していただきたい。

#### 委員

縦割りをなくすという役割を社会教育委員が担うことができれば良いのではないかと思う。また、コロナ禍を前向きにとらえることも大切である。学校では、子どもたちは全員クロームブックをもっており、授業に欠かせないものとなっている。地域の知識を持った人に、学校に来ていただかなくても、リモートで貴重なお話を聞くことができるなど、広がり期待できると考える。

○ 閉会 11時33分

副委員長あいさつ

以上